

巻 頭 言

—最近、気にかかっていること—

愛知県小児科医会 副会長
木戸 真二

テーマは自由と言われましたが、巻頭言は若輩者には荷が重い気がします。

近年、小児科においても各専門領域での疾患概念や治療法の変遷は当然のこと、以前大西先生が書かれた巻頭言にもありましたように、医療を取り巻く環境や制度の変遷も速度を増しているのが現状のように思います。課題としては、5歳未満児の事故も含めた死亡率を下げるためPICUを含めた集約化された小児救急体制づくりや、予防接種も含めた小児保健活動や在宅医療も含めた障害児医療、女性医師も含めたキャリアプランの確立など、数多く存在していると思います。

小児医療提供体制としては1) 中核病院(大学病院や小児病院などの専門病院) 2) 地域小児科センター病院(救急型、救急+NICU型) 3) 地域小児科(療養型病院も含む) 4) 診療所と大まかに区分され、愛知県ではあいち小児保健医療総合センターにPICUが設置される予定になっていますし、新生児医療を円滑化するための一つとして、在宅医療も含めてですが、障害児医療病院も拡充されつつあります。さらに、各地で診療所の先生方の輪番制での地域小児科センター病院やグループでの時間外診療の活動もでてきています。

また予防接種に関しては、まだ問題点はありますが、ここ2-3年で予防接種の種類も増え、補助金などの予算もついて、関心が高まり、広域化や定期接種化も動きつつあります。

このような状況の中、結局は目の前の事象に真摯に対応するしかないのだらうと思いますが、自分自身もプライマリケア主体の立場でどのように活動するのがいいのかが問われているような気がします。小児科1次診療の内容としては、急性疾患、慢性疾患、予防保健活動に分けて考えると

- 1) 急性疾患の診断と治療及びトリアージ
- 2) 病児保育など
- 3) 慢性疾患の外来管理

- 4) 軽度発達障害児の外来管理
 - 5) 在宅医療
 - 6) 予防接種と乳幼児健診
 - 7) 校医などの保健、行政活動
- などが考えられると思います。

日本小児科学会「小児科医の到達目標」からの引用ですが、地域総合小児医療の到達目標は下記のようになっていました。

- 1) 乳幼児健診、育児相談が実施できる
 - ・成長、発達障害、視聴覚異常、行動異常、虐待などを疑うことができる。
 - ・養育者の育児不安を受けとめることができる
 - ・基本的な育児相談、栄養指導、生活指導、予防接種指導ができる
 - 2) 子どもの疾病、障害予防、早期発見、基本的な治療ができる
 - ・子どもや養育者とコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できる
 - ・子どもを含めた家族全体の把握に努め、総合診療医としての役割を果たす
 - ・心理的な問題や虐待を念頭において、子どもや養育者を注意深く観察できる
 - ・子どもや養育者からの確かな情報収集ができる
 - ・的確な身体診察ができる
 - ・診断に必要なスクリーニング、検査を指示できる
 - ・診断や治療について本人と養育者にわかりやすく説明できる
 - ・重症度や緊急度を判断し、初期対応(診療)、トリアージと適切な医療機関への紹介ができる
 - ・稀少疾患、専門性の高い疾患を想定し、専門医へ紹介できる
 - 3) 地域の医療、保健、福祉、行政スタッフと協力できる
 - ・地域の医療、保健、福祉、行政の専門職とコミュニケーションがとれる
 - ・上記専門職と協働し、地域の医療、保健レベルの向上を図る
 - ・生涯教育を通じて自らの能力開発、資質向上に努める
 - ・自らの心身の健康管理を怠らない
- となっています。目標ではありますが、自分にとって、現実に目をやるとなかなか達成できていないことも多いのではないかと思います。
- さて、後半は医療とは関係ない話ですが、中国に行ったときの話をしようと思います。
- 2012年夏、尖閣諸島問題が表面化して、デモなど

で中国国内が荒れる少し前に北京に家族で観光旅行に行きました。もちろん中国語はわかりませんので、ガイドさんと一緒にです。そこでは雑多ではあるが、日本の10倍を越える人口を持つ国である中国の強いエネルギーを感じました。高層ビルが立ち並び、欧米と比較しても遜色ない都市部と都市の中でも、開発が遅れてしまっている場所とのギャップ（例えば、実際あったのですが、ベンツの横をリヤカーと一緒に走ったりしていました）を感じました。旅行中は大気汚染もひどくなく、旅行前の水害の影響もなく、観光名所（天壇公園、万里の長城、故宮、天安門広場など）に行きました。今でも時々天安門広場などがニュースではよくでてきますので、懐かしく思えます。そのときは万里の長城にも雪はなく、その冬に万里の長城での日本人の遭難死亡事故が報道され、びっくりしたことを覚えています。また、旅行中に丹羽大使の車が少し被害を受けた翌日は北京市内で警察官がいつもより多かった印象があります。行く場所が観光地で、ガイドさんといっしょだったこともあり、そこでの中国人の対日感情は悪くなかったと思います。韓国に対しても同様ですが、個々人同様に国家間でもコミュニケーションは大事だと思います。日本人は自分も含め、実際には不慣れな場合が多いのですが、種々の状況下でのコミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。